

1. 業績(A)

(1) 著作

1. 『オーラルヒストリー』(中公新書, 2002年4月, 210頁)私が研究リーダーを務める「オーラル・政策研究プロジェクト」の中間報告的意味あいをも含めた, オーラルヒストリーに関する問題提供的著作。アカデミズム, ジャーナリズム双方にかなり話題にされ, 良い意味でも悪い意味でも(?)注目を集めた。その結果, 「オーラル・ヒストリー」への社会的認知度が急速に高まった。
2. 『歴代首相物語』(新書館, 2003年3月, 302頁)本書は, 初代伊藤博文から87代小泉純一郎までの56人の首相について, そのリーダーシップに着目して編集したハンドブック。30才代を中心とする私が直接知っている研究者に手分けをして書いてもらったもの。私は「小泉純一郎」を担当。単なるハンドブックを超えた出来栄えとなり, 早くも定本化しつつある。書評もかなり出たが, インタビューを受けたものは次の通り「『歴代首相物語』の編者御厨貴さんに聞く」『毎日新聞』(2003年3月14日付夕刊)
3. 『日本政治史 - 20世紀の日本政治』(放送大学教育振興会, 2003年3月, 168頁)天川晃教授が戦後7章, 私が戦前8章を担当。放送大学(テレビ, 03年度~06年度まで4年間)のテキストブック。五百旗頭真, 北岡伸一, 坂野潤治 各教授の名テキストの後だけにプレッシャーも感じたが, 結局は自らの色に染め上げたテキストになった。
4. 『首相官邸の決断 内閣官房副長官 石原信雄の2600日』(中公文庫, 2003年6月)本書は1997年に刊行された原著に, 成田憲彦氏の解説を付して文庫版として装いも新たにお目見えしたものの。定評あるオーラルヒストリーの決定版と言ってよい。解説を依頼した成田氏は細川首相秘書官ただだけに, 私の読み方(コンメンタール)にほぼ全面的に異を唱えた論争的なコメントを書いて下さった。これはまことにありがたいことで, オーラルヒストリーの扱いをめぐる今後こうした議論をますます盛んにしなければならない。

(2) 学術的論文

1. 「危機管理コミッティとしての復興委員会 - 『同時進行』オーラルの『ファイル』をめぐる」木村汎編『国際危機学』(世界思想社, 2002年6月)260頁~282頁3年間務めた国際日本文化研究センター客員教授としての研究会の成果。同時進行オーラルヒストリーの分析を試みたもの。
2. 「小泉・自民政権の機能不全」(『論座』8月号)94頁~101頁
3. 「私の書いた歴史教科書・議会と政党の移り変わり」(『中央公論』9月号)68頁~72頁「教科書を物神化するなかれ」(『中央公論』9月号)104頁~105頁
4. 「明治天皇から昭和天皇へ」(『大航海』45号<1月号>)78頁~83頁今年度も問題提起的な論文をいくつか『総合雑誌』に発表。

は『朝日新聞』(7月3日付)にも取り上げられ, 参議院優位論の側面が, 政界で話題となったやに聞く。は「特集 歴史教育を問い直す」の編集構成にアドバイザーとして参画した。も「特集 近代天皇論」の編集・構成にアドバイス。総じて研究者にも, エディタースhipが要求される時代となったことを痛感する。

(3) 学術的報告

1. 経団連「エネルギー総合推進委員会」にて「問われる日本の政治」(4月17日)と題して講義。速記録あり。
2. 慶應大学SFC「福沢諭吉・研究」講座にて「オーラルヒストリーとしての『福翁自伝』」(4月26日)と題して講義。阿川尚之教授の斡旋によるもの。
3. 全資料協関東部会講演会(千葉県公文書館)にて「オーラルヒストリー」(5月21日)と題して講演。速記録あり。

群馬大学所澤潤教授の斡旋によるもの。

4. マスコミ・島谷塾(リクルート本社)にて「オーラルヒストリー」(6月11日)と題して講演。
5. 日本銀行金融研究所セミナーにて「オーラルヒストリー」(6月13日)と題して講演。行内用録音テープあり。藤原作弥副総裁，翁邦雄所長の斡旋によるもの。
6. 昭和女子大学日本文化学科特別講義にて「オーラルヒストリー」(6月14日)と題して講演。千葉功講師の斡旋によるもの。
7. 日本比較政治学会研究会(東京大学)にて「自由論題」の司会を担当(6月22日)
8. 人事院「公務員問題懇談会」にて加藤秀樹氏らと「提言」及びディスカッション(7月12日)。(「人事院月報」8月号)2頁～7頁
9. 東京大学先端科学技術研究センター教授会セミナーにて「日本政治の中の大学改革」(9月9日)と題して講演。放送大学テキストに改稿の上掲載。
10. 楠田実「現代セミナー」(プレスセンタービル)にて、「オーラルヒストリー」(10月11日)と題して講演。速記録あり。
11. 都立小石川高校 PTA 講演会にて「遠い政治，近い政治」(10月12日)と題して講演。速記録あり。
12. 世界経済調査会(経団連会館)にて「日本政治よどこへいく」(1月22日)と題して講演。速記録あり。
13. 大阪倶楽部にて「漂流する日本政治」(1月29日)と題して講演。
14. サントリー文化財団「現代国家と倫理」研究会にて「政策決定のあり方と倫理」(1月29日)と題して講演しディスカッション。故坂本多加雄氏の遺志に報いるもの。速記録あり。
15. 一橋大学大学院シニアエグゼクティブ講座(オンワード総研)にてリーダーシップのあり方や政策決定のあり方について講義しディスカッション(1月31日)。伊丹敬之教授，沼上幹教授の斡旋によるもの。

(4) C.O.E.オーラル・政策研究プロジェクト研究リーダー，政策情報プロジェクト研究主任

オーラルヒストリー・プロジェクトも3年目を迎え，(1)で述べたように，中間報告的体裁の新書本を公刊した。

オーラルの実施状況は別記活動報告を参照のこと。但し，インタヴュアーとして参加したオーラルは下記の通り。矢口洪一，塩飽二郎，宮澤喜一，工藤敦夫，水上萬里夫，画商F，股野景親，園部逸夫(補充)，荻野五郎，大室政右，小野和俊，下河辺淳，松山泰雄，斉藤影

今年度は，学術振興会現地調査の年(3年目)だった。8月27日に石井寛治東大名誉教授と薬師寺泰蔵慶大教授の両審査委員を迎え，当方は私と石原事務局長，それに渡辺学術課長とで対応。評価はホームページに掲載されている。

研究リーダーとして下記の会合を主宰

- <1>プロジェクト・ミーティング(月1回開催)<若松町会議室>
 - <2>レビュー・パネル(年2回開催) <若松町会議室>
 - <3>方法論研究会(年5回開催) <虎ノ門プロジェクトセンター>
 - <4>コンメンタルの会(年7回開催) <虎ノ門プロジェクトセンター>
- <1>はオーラル・政策研究プロジェクトの現状を把握する会合。
<2>は海外視察の報告や今後のプロジェクトのあり方を検討。
<3>は武田徹氏と共に，外部講師を招き討論。冊子化推進中。
<4>はプロジェクト内部から話題提供者を選び報告の後，質疑応答。

国際シンポジウム『21世紀のオーラルヒストリー』をサンケイプラザにて、2002年11月8日-9日の2日間にわたって開催。新聞各紙に事前・事後ともとりあげてもらうことができ、破格の宣伝効果が生じた。これらはオフィスにすべてスクラップしている。一例として、

『毎日新聞』(11月15日付夕刊)

『読売新聞』(11月20日付夕刊)

『共同通信』(11月15日以降配信の各地方紙)

をあげることができる。また、各セッションとも満席に近い状況で「オーラルヒストリー」の意義も充分にわかってもらうことができたと思う。

その他、オーラルヒストリーの紹介パンフレット、ニュースレター、『オーラルヒストリー』(4回発行)、研究報告書(14冊発行)を順次公にしている。詳細は別紙活動報告を参照のこと

今年度はGRIPSが本来構想していた公共政策プログラム及び博士課程プログラムと特定の研究プロジェクトとを有機的に結びつけて展開する試みが本格的になされ、成功を収めたものと評価しうる。すなわち、公共政策プログラムの特定課題研究と博士課程プログラムの博士論文研究指導とに、共にオーラルヒストリーの方法を応用しプロジェクトの一端を担う形で、3人の学生がフィールドワークに従事した。

- ・博士課程 佐脇紀代志 石炭政策オーラルヒストリー <14回>
- ・公共政策2年 中内康夫 元参議院事務総長オーラルヒストリー<5回>
- ・公共政策1年 沓掛誠 国鉄民営化オーラルヒストリー <10回>

本プロジェクトによる支援の形をとっている次の三つのオーラルヒストリープロジェクトについて記しておく。

日本道路公団総合研修所経営研修調査室「オーラルヒストリー研究委員会」の第2次研究委員会で、内海倫氏などにオーラルを実施。これに参加。

河川協会「河川行政オーラルヒストリー委員会」はオーラル実施のほか、「渡辺隆二氏オーラルヒストリー」をまとめ刊行準備の段階に入った。私は解題的はしがきを求められ執筆。

日本銀行金融研究所「オーラルヒストリー」。翁邦雄、鎮目雅人両氏の推進により私のセミナーを経て年度後半からパイロット・オーラルを開始。

元日銀理事安斉隆、元日銀政策審議委員後藤康夫両氏のオーラルを各自2~3回実施。速記録の他、私と鎮目氏との共著による報告書を作成。(次年度以降、正式開始に決定)

おそらくは1年遅れで防衛庁防衛研究所戦史部が、同じような経緯を経て「オーラルヒストリープロジェクト」を立ち上げることとなる。

本学創設と同時に始まった政策情報プロジェクトは5年の時限プロジェクトであり、今年度をもって一応終了した。ただしCOEオーラル政策研究プロジェクトと2000年度からは事実上一体化して運営していたので、後者のプロジェクト終了時に名実ともに終了することになる。

2. 業績(B)

(1) 書評関連

「味読・愛読・文学界図書室」『文学界』に隔月下旬書評連載。今年度で4年目。(なお、今年度で終了)

- E・ホフファー『エリック・ホフファー自伝』(9月号)
- 青山 繁晴『平成』(10月号)
- 佐藤 卓己『「キング」の時代』(12月号)
- 海老坂 武『<戦後>が若かった頃』(3月号)
- 佐々木幹郎『やわらかく、壊れる』(5月号)

その他の雑誌に載せた書評、本にまつわるエッセイ

- 「書評特集 私が選ぶ3冊<永原慶二, ポール・トンブソン, 日野啓三>」『論座』(1月号)
- 「日本を見つめ直す最良の歴史書<岡義武, 佐藤誠三郎, 高坂正堯>」『文藝春秋』(3月号)
- 「船橋洋一『日本の志』」『潮』5月号

「今週の本棚」『毎日新聞』に2ヶ月に1回の割で書評を寄稿。

- 江田賢司, 西野智彦『改革政権が壊れる時』(4月21日付)
- 斉藤健『転落の歴史に何を見るか』(6月16日付)
- ラドヤード・キプリング『キプリングの日本発見』(7月14日付)
- ポール・トンブソン『記憶から歴史へ』(9月29日付)
- ハーバート・ビックス『昭和天皇』上・下(12月15日付)
- 今年の三冊<エリック・ホフファー, 日野啓三, 武田徹>(12月22日付)
- 松沢哲郎『進化の隣人 人とチンパンジー』(2月16日付)
- ポブ・ウッドワード『ブッシュの戦争』(3月30日付)

その他の『新聞』に載せた書評、本にまつわるエッセイ

- 「佐藤卓己『キングの時代』」『共同通信』配信(10月20日以降の各地方紙)
- 「岩波イスラーム辞典」『毎日新聞』<毎日出版文化賞選評>(11月3日付)
- 「面白い人続々 伝記の楽しみ」『読売新聞』<本よみうり堂ジュニア館>(12月7日付夕刊)

私が選んだこの一冊 塚田博康東京都の肖像」『毎日新聞』<ブックウォッチング> (12月18日付)本にまつわる文章を書くチャンスは相変わらず多い。新聞の常連書評は93年から96年まで務めた「読売新聞」以来、今度の「毎日新聞」で5年ぶりである。随分素直に書けるようになったと思う。ビックスの「昭和天皇」の書評は、めずらしく辛口で話題を呼んだ。

(2) テーマ対談

「『戦争責任』の着地点を求めて<船橋洋一, 三島憲一両氏と>」『中央公論』2月号 47頁~71頁「特集戦争責任の決着をどうつけるか」の全体の編集・構成につきアドバイザーとしての役割を果たした。

3. 教育

(1) 公共政策プログラム

「政策研究の基礎」春学期木曜(3:00 - 4:30PM)

「政策事例研究の基礎」(秋学期, 不定期)

今年は、オーラルヒストリーの実践を考慮し、この授業枠の中でオーラルヒストリーの方法と課題について、佐道明広助教授も交えて 期生諸君と議論した。その上で、 期生の中内康夫、及び 期生の沓掛誠の両人の申出により、特定課題研究へ向けてのオーラルヒストリーを秋学期から冬学期にかけて行った。中内は個人オーラルの形で元参議院事務総長のオーラルを5回、沓掛は政策オーラルの形で、国鉄民営化にまつわる人々のオーラルを10回実施した。彼等2人の質問表作りは、なかなか見事であり、効率よくオーラルを進めることができた。来年度にはいずれも冊子化される予定。

(2) 博士課程プログラム

「政策分析セミナー」春学期, 秋学期, 冬学期, 金曜不定期(6:30 - 9:00PM)

政策研究セミナーを、ビビッドな現場感覚をもちながらやりたいという願いを、このセミナーでは、しっかりと実現することとなった。参加者は、博士課程の佐脇紀代志柏谷泰隆、今野治、それに公共政策から沓掛誠。スペシャルゲストとしてオーラルヒストリープロジェクト事務局長石原直紀、それに東京都立大学法学部助教授伊藤正次に加わってもらった。

本学の授業に関しては毎年新しい試みを考えているが、このセミナーでは、毎回ごとに私と参加者との所信を述べる『政策分析セミナー通信』をメールで流し、相互理解を深める努力をした。そこで初回の私のセミナー通信を抜き書きして、私の意のあるところを汲んでもらいたいと思う。なお、これについては、下記の書物の中ですでに公表している。

「政策研究」『AERA MOOK 新版 政治学がわかる』(2003年3月), 82 - 83頁

「いよいよ今年は後期課程のセミナーを開設することとなりました。メインの参加者がキャリアの官僚出身であることを考慮に入れると、現実に今展開されている"政策"を現場感覚で捉えながら、しかもそれを"学生"の身分に立ち返り教室で議論することができたらと思っていました。ジェットコースターにみんなで乗ってしまう壮大な政策研究を試みたいとの痛切な思いです。

最近、自らが有識者委員会の長を務める『外環道』をテーマに決めました。自分が現に携わっている"政策"マターをそれにまつわる文書類を素材に分析していくのは、なかなかスリリングな行為に違いありません。そもそもセミナーの主宰者が同時に当事者でもあるわけですから、この二重性にどうやって折り合いをつけていくか難しいところです。それから後期課程の諸君は、前期課程で、私が口をすっぱくして言い続けた『背後霊を捨てよ。組織でモノを考えるな』との教えと真正面からぶつからざるを得ません。今回のテーマを"現場感覚"で捉えようとすればするほど、一度は追い払ったはずの各省意識にいつのまにかどっぴりとつかっている自分自身を発見することになるでしょう。その必然的な立場意識を、いかに芽生えつつある客観的分析者としてのもう一方の立場に包摂していくことができるのかどうか、今回のセミナーのキーポイントに相違ありません」

こうして始まったセミナーは、有識者委員会と同時進行で進み、海外との比較、他の分野のとの比較、新たな問題の発見など、思いもかけぬ豊かな内容の展開をみた。

そこで今後、政策研究に資するよう、まとめて公刊する予定である。

(3) 博士課程研究指導

私が主指導教官を務める佐脇紀代志、柏谷泰隆の2名に対して、飯尾潤、加藤淳子(東京大学)の両先生と共に、研究指導を行った。2人とも、オーラルヒストリーの手法を博士論文執筆に生かすため、積極的にオーラルヒストリープロジェクトとの連携をはかった。その結果、オーラルヒストリーは論文執筆に資すると共に、それ自体も資料として利用可能のものとなった。

佐脇：『石炭政策オーラルヒストリー』 年度内に冊子化

柏谷：『矢口洪一オーラルヒストリー』『水上萬里夫オーラルヒストリー』
いずれも次年度冊子化予定

なお、佐脇は年度内にQ・Eに合格。次年度の博士論文が審査を通れば、本学の博士(政策研究)第一号となる予定(その後、これは事実となった)。

論文題目「政策の長期継続に関する要因分析 - 日本の石炭鉱業を巡る政治過程を素材に - 」

(4) インター・ユニバーシティ・セミナー・御厨塾

「日本政治史プロフェッショナルセミナー」月2回(6:00 - 9:00PM 2次会 - 11:00PM)

この試みも4年を経過し、残すところあと半年で『佐藤栄作日記』(全6巻)読破という偉業を達成することになる。私が本学に在籍した期間とはからずもピタリと重なることに感慨無量である。今年度の合宿では升味準之輔先生をお迎えし、先生の『日本政党史論』(全7巻)をあらためて書評する会を催しとても有意義であった。いずれこのイベントについても升味先生の著作リストと共に冊子化が予定されている(その後これは刊行された)。またこのメンバー全員の参加によって『歴代首相物語』が刊行されたことも痛快事であった。次年度、可能ならばこのメンバーによる『佐藤栄作日記』を素材とした研究論文集を作成したいと考えている。

4. 管理・運営への関与

- 常任委員会委員(1997.10 ~ 2003.04)
- 人事評価調査会委員
- キャンパス検討委員会委員
- 博士課程委員会委員

以上の役職はすべて、今年度末をもって終了

5. 社会的貢献(A)

(1) 他大学、研究所等

- 放送大学客員教授(日本政治史)

今年度後半期は、放送大学のビデオ録画、テキスト執筆で忙殺された。ゲストの五百旗頭薫、千葉功、坂元一哉、北岡伸一、野島陽子、苅部直、牧原出、猪木武徳の8氏と、たとえ10分間とはいえ、それぞれのテ-

マにつき議論できたのは幸せであった。

またスタッフと原敬記念館やノサップ岬を訪れたのも、有意義であった。

天川晃教授と共同作業も行った。

- 慶応大学グローバルセキュリティセンター「地方分権研究会」委員・「公共事業」ワーキングチーム主査。リーダーは榊原英資教授。
- 国立公文書館「専門職員養成過程」講師(2002年11月25日「オーラルヒストリー」)今年で4年目。
- 人事院「国家公務員採用I種試験」専門委員。
- 学習院大学法学部大学院博士論文審査委員(佐道明広)。主査は井上寿一教授。

(2) 財団法人等

- (財)社会経済生産性本部 経営アカデミー コーディネーター
- (財)サントリー文化財団 サントリー学芸賞「思想・歴史部門」選考委員
- 毎日新聞社 毎日出版文化賞 選考委員
- (財)東京市政調査会 評議員
- (社)日本経済調査協議会「憲法問題を考える」委員会主査。リーダーは葛西敬之 JR 東海社長。

(3) 学会等

- 日本政治学会理事 2004年度年報委員長 IPSA 組織委員会委員
2004年度の政治学会年報のテーマは「オーラルヒストリーと政治学」に決定。
ちょうど COE オーラル政策研究プロジェクトの成果刊行年度にむけて、政治学会との連携は好機到来であり、早速に学内外の人々に呼びかけ、委員会を立ち上げた。
プロジェクト内で今年度行った「コメンタールの会」は、次年度以降、年報研究会に吸収の予定。
- 日本国際政治学会評議員

(4) 審議会，懇談会，第三者委員会等

1. 栄典に関する有識者(内閣府)
2. 「追悼・平和祈念のための記念碑等施設のあり方を考える」懇談会委員(内閣官房)(~2002年12月)
3. 東京環状道路有識者委員会委員長(国土交通省・東京都)(~2002年11月)
4. 外交政策評価パネル委員(外務省)
5. 平成17年度に向けた試験の出題方法に関する研究会委員(人事院)
6. 科学研究費委員会専門委員(日本学術振興会)
7. 防衛政策懇談会委員(防衛庁)
8. 安全保障政策研究会委員(防衛庁)

国のあり方に関わる会への参加を求められること、今年度も変わりなし。特に と は、マスコミの着目度が高く、始終発言を求められた。また前後の非公式会合も多くかなりの時間をとられた。いずれも初めての経験で、いまだ自分自身の中でも総括しえていない。すでに会としては終了したが、問題そのものは解決しておらず、今後も様々な角度から考察していきたいと考えている。しかもこれらは公共政策の学問的課題にもなりうる有力な素材であろう。

6. 社会的貢献(B)

(1) 新聞メディア

毎日新聞「雑誌を読む」担当<橋爪大三郎, 斎藤環両氏と分担>

<メイン批評>

- 「政治家と知識人の文体」(5月29日付夕刊)
- 「正念場の外務省改革」(8月28日付夕刊)
- 「歴史位相から見た現代」(12月25日付夕刊)
- 「『ブッシュの戦争』の歴史的文脈」(3月27日付夕刊)

<サブ書評>

- 「近代の終焉と国家の撤退」(4月24日付夕刊)
- 「魅力と危険の二つの石原論」(6月26日付夕刊)
- 「変化する学問のあり方」(7月31日付夕刊)
- 「非組織社会にどう迫るか」(10月30日付夕刊)
- 「北朝鮮問題の歴史と未来」(11月27日付夕刊)
- 「有識者政治の責任とは？」(1月29日付夕刊)
- 「昔あってこそという視点」(2月26日付夕刊)

<座談会>

- 「『9・11テロ』1年」(9月25日付夕刊)
- 「論壇この1年」(12月22日付夕刊)

毎日新聞の論壇時評も今年で2年目。各雑誌固有のテーマ, 訴求力が弱くなったせい, こちらで勝手に毎回のテーマを決めてエッセー風に書くことが多くなった。私の場合, 歴史の視点がことさら強まったように思う。

各紙<一般>

- 「都知事就任3年『国動かす』都庁に気概」<コメント>『産経新聞』(4月20日付)
- 「和歌山 自民薄氷"孤塁"守った」<コメント>『読売新聞(大阪版)』(4月29日付)
- 「<討論>政治とテレビ」上・下<討論相手: 櫻井よし子, 斎藤三郎>『読売新聞』(5月14日付夕刊, 15日付夕刊)
- 「公人の記憶 共有財産に 進むオーラルヒストリー研究」<取材>『朝日新聞』(6月25日付)
- 「今週の『意義あり!』小泉改革の成果」<インタビュー>『毎日新聞』(7月25日付夕刊)
- 「<論壇>今, 石原都知事は」『都政新報』(8月23日付)
- 「小泉改造内閣 緊急全国世論調査」<コメント>『読売新聞』(10月3日付)
- 「昭和天皇マッカーサー元帥会見録 識者談話」『読売新聞』(10月18日付)
- 「厚労省調査 出向受け入れに助成金」<コメント>『日本経済新聞』(11月1日付夕刊)
- 「迫水久常証言テープ公開」<コメント>『毎日新聞』(11月25日付)
- 「2002回顧 論壇 ベスト3」『読売新聞』(12月9日付夕刊)
- 「<新春座談会>石原都政の課題と東京変革への挑戦」<座談相手: 古川勇二, 黒川和美, 森野美德>『都政新報』(1月7日付)

各紙<懇談会, 有識者委員会関連>

<懇談会>

- 「追悼施設必要論強まる 懇談会メンバー」<コメント>『朝日新聞』(5月4日付)

- 「追悼施設提言 靖国問題解決遠のく」<コメント>『朝日新聞』(12月25日付)
<有識者懇談会>
- 「<解説>住民参加」<コメント>『読売新聞』(4月13日付)
- 「<論壇>PIと『東京環状道路有識者委員会』」『都政新報』(5月24日付)
- 「外環道計画 住民参加の方式で再スタート」<インタビュー>『読売新聞』(5月29日)
- 「見つめてみよう 未来へのみち」<インタビュー>『建設通信新聞』(8月7日付)
- 「<解説>第三者機関」<コメント>『読売新聞』(12月13日付)
- 「東京外環道特集」<記者会見>『毎日新聞』(12月24日付)
- 「東京外環道 凍結30年 インターの難問」<談話>『読売新聞』(2月24日付)

(2) 新聞以外の活字メディア

- 「<潮流>社会資本の整備 - きめの細かい配慮を - 」<インタビュー>『国土交通けいざい』(6月号)
- 「<特集>住民参加で変わる役割分担」<コメント>『日経コンストラクション』(6月28日号)
- 「<対論>国民が望んだ総理と石原慎太郎の感性」<討論相手：鳥越俊太郎>
鳥越編『石原「総理」の危うさ』(小学館月刊総合文庫, 2003年4月)
- 「首都機能移転は文明論的観点を大切に」『国会等の移転 オンライン講演集』(国土交通省 首都機能移転企画課, 2003年3月)

(3) 映像メディア

東京MXテレビ『都議会中継』『都議会の焦点』解説者

都議会ウォッチングと解説の2年目。「御厨貴のトウキョウ塾」のコーナーもいよいよ充実。解説者として内山融(東大助教授)にも新規参画してもらった。

- 6月 第2定例会
- 9月 第3定例会
- 12月 第4定例会
- 2-3月 第1定例会

NHKテレビ『視点論点』(2003年2月19日)

「記憶から歴史へ」というタイトルで「オーラルヒストリー」をテーマに語った。

(4) その他

- 「<追悼・日野啓三>日野さんの遠近法」『文学界』(12月号)
- 「我が友・坂本多加雄を悼む」『毎日新聞』(11月1日付夕刊)
- 「<学会消息>坂本多加雄氏の訃」『日本歴史』(3月号)
- 「<花かご>オシャベリ共同体の昨今」『はなみずき』(16号, 2003年3月)

- はいずれも追悼文である。本学に赴任した1999年11月に恩師佐藤誠三郎副学長をなくして以来の痛恨事であった。

なお、は『婦人公論』(12月7日号)の「メモリアル 蓋棺録 坂本多加雄さん」に引用された。